

公益社団法人私立大学情報教育協会

令和元年度 第2回産学連携推進プロジェクト委員会議事概要

I. 日 時：令和元年10月28（月）17：00～19：00

II. 場 所：アルカディア市ヶ谷 私学会館

III. 参加者：向殿委員長、大原副委員長、辻村委員、酒井委員、青木委員、歌代委員、
田辺アドバイザー、斎藤アドバイザー、保木アドバイザー（代）、渡部アドバイザー、
河野アドバイザー、青木アドバイザー、杉本アドバイザー（代）、井端事務局長、森下

IV. 資料

1. 令和元年度産学連携事業日程検討表
2. 令和元年度「社会スタディ」開催要項（案）
3. 令和元年度「大学教員の企業現場件」検討中（案）

参考資料

- ① 産学連携 AI 人材育成（日経産業新聞 2019. 8. 29）
- ② 大和総研・同志社大学データサイエンスにおける包括的教育研究の情報
- ③ NEC・滋賀大学のデータサイエンス連携協定の情報
- ④ 関西学院大学と日本 IBM の AI 共同プロジェクトの情報
- ⑤ 履修は AI × 専門科目に（日経産業新聞 2019. 9. 16）

V. 検討内容

1. 令和元年度産学連携事業日程検討表について

事務局より資料1で令和元年度の産学連携事業日程が報告され、日程が確認された。なお、産学連携人材ニーズ交流会は3月11日又は13日で有識者のご都合に合わせて決定することにした。

2. 社会スタディについて

事務局から資料2の「社会スタディ」開催要項（案）が報告され、3名の有識者の了解が得られたことから令和2年2月12日（水）開催で確定し、以下の部分を修正した。

① 開催趣旨

全てのモノがインターネットに繋がる IoT の普及やビッグデータ、AI（人工知能）等の技術革新が進展し、様々な分野で産業構造、人々の働き方、ライフスタイルが大きく変化することが想定されています。日本には、社会が抱える課題解決の創出国として自ら新たな成長分野を創り出し、チャレンジしていくことが求められています。その源は君たち一人ひとりの力に負うところが大きく、とりわけ未来に立ち向かい、自ら切り拓く高い志と意欲に委ねられています。

この社会スタディでは、情報通信技術を活用して新しい価値の創出の重要性に気づいていただき、早い段階から発展的な学びが展開できることを期待しています。

② 開催日時に

※ 会場参加に加えて、ネット参加も可能です。を追加した。

③ 有識者について

前回検討した3名の有識者の了解が得られたことから令和2年2月12日（水）開催で確定した。

③ スケジュール

昨年度の参加者から、「15:35 迄の間に 10 分程度の休憩時間が欲しい」との意見があり、情報提供 1 と 2 の間 (14:40) に 10 分間の休憩を入れ、終了時間を 17:30 にすることにした。

④ 有識者の情報提供

参加学生の興味を引き参加意欲を高めるタイトル、概要紹介にすべく以下のように修正を行った。

開催趣旨

全てのモノがインターネットに繋がる IoT の普及やビッグデータ、AI (人工知能)等の技術革新が進展し、様々な分野で産業構造、人々の働き方、ライフスタイルが大きく変化することが想定されています。日本には、社会が抱える課題解決の創出国として自ら新たな成長分野を創り出し、チャレンジしていくことが求められています。

その源は君たち一人ひとりの力に負うところが大きく、とりわけ未来に立ち向かい、自ら切り拓く高い志と意欲に委ねられています。

この社会スタディでは、情報通信技術を活用して新しい価値の創出の重要性に気づいていただき、早い段階から発展的な学びが展開できることを期待しています。

2. プログラム概要

タイトル、情報提供の概要を修正した

| | |
|-------|--|
| 12:00 | 12:00~12:30 受付開始 |
| 12:30 | 開会挨拶 |
| 12:35 | 社会スタディの進め方について |
| 12:50 | 1. 有識者からの情報提供、質疑応答、補足説明 (1) 「さあチャレンジを始めよう “未来は君たちの手にある” -AI と社会イノベーション-」 須藤 修 氏 (東京大学 大学院 情報学環 教授) ※ IoT や AI などデジタル技術をベースに産業や社会の在り方は大きく変わろうとしている。インド、中国、米国などでは新しい発想によるイノベーションやスタートアップ (起業) が桁違いの生産性向上や新たな消費をもたらしている。これからの社会を変えていく主役は従来にとられないイノベーションにチャレンジする君たちである。 |
| 13:45 | (休憩) 13:45~13:55 (10分) |
| 13:55 | (2) 「価値を創り出すイノベーションとは」 小西 一有 氏 (合同会社タッチコア 代表 九州工業大学 客員教授) ※ デジタル革命が進展していく中で成功するには新たな価値を生み出す様々なイノベーションが求められている。今まで日本が得意としてきた「問題解決のイノベーション」だけでなく、「モノからコト」へのような人々の生活の豊かさや幸せ感をもたらす「意味のイノベーション」が避けられなくなっている。 |
| 14:50 | (3) 「AI を活用する力」 永井 浩史 氏 (富士通株式会社 Data×AI 事業本部 ディレクター) ※ 10 年先・20 年先の社会を予測し、そこから現在を考えてイノベーションに取り組む考え方と現場を見て、デザインし、コンセプトを検証する思考方法を身に付けてほしい。「未来洞察力」と「場のデザイン力」を組み合わせたことが「AI を活用した価値創造に必要な思考のフレームワーク」である。 |
| 15:45 | (休憩) 15:45~15:55 (10分) |
| 15:55 | 2. 気づきの整理と発展 (1) 気づきの整理と発展のためのグループ討議 ※ グループで「情報通信技術を活かして未来社会にどのように向きあうか」について考える。 |
| 17:15 | (2) 気づきの発表 ※ グループごとにまとめた結果を代表者が発表する。 |
| 17:30 | 閉会挨拶 |

3. 産学連携人材ニーズ交流会について

現在有識者のご都合を調整中で、3月13日（金）をメインに3月11日（水）を予備として検討中であることが報告された。また、「大社接続」によるAI・データサイエンス教育の取組みについて、もう1つの事例を紹介することも含めて情報教育研究委員会情報専門分科会の意見も踏まえて見直しを行い、次回（11月末）の委員会で最終的な開催要項を確定させることにした。

4. 大学教員の企業現場研修について

資料3で、令和元年度「大学教員の企業現場件」について、4社の計画（案）が報告された。

5. 今後のスケジュールについて

- (1) 「社会スタディ」開催要項（案）については、本日の検討内容を踏まえて3名の有識者に情報提供のタイトル、概要等を確認、結果を委員にメールで報告するとともに11月中旬には開催要項を発送する。
- (2) 「産学連携人材ニーズ交流会」については、依頼中の有識者の確認、「大社接続」によるAI・データサイエンス教育の取組みについて、もう1つの事例を検討する。また、情報専門分科会の検討を踏まえて最終（案）を次回（11月末）の委員会で報告し、開催要項を確定させることにした。
- (3) 「大学教員の企業現場研修」は、次回委員会までに各社の開催計画を確定いただくことにした。

6. 次回の日程について

次回の委員会は令和元年11月28日（木）17:00～19:00とした。